

青少年教育指導者等の養成及び資質向上事業

「ボランティア養成セミナー」

～赤城からひらく、新しい扉～

1. 趣旨

参加者に、青少年教育施設のボランティアに関する理論と活動に必要な知識や技術を身につけさせる。また、先輩や同年代といったボランティア同士の縦と横のつながりを深めて、意欲や継続力を高める。

これをきっかけに積極的にボランティア活動に参加することで、社会性や自立心を育み、広く社会において活躍できる人材を育成する。

2. 事業の概要

(1) 期日

第1回：平成30年6月 2日（土）～6月 3日（日）【1泊2日】 ※群大教育学部と連携して実施

第2回：平成30年6月16日（土）～6月17日（日）【1泊2日】

(2) 参加者

①参加対象

第1回：群馬大学教育学部生（講義「NC&CSL」受講生のうち、参加希望者）

第2回：高校生・学生・社会人等でボランティア活動に興味・関心のある人

②参加人数

第1回：140名（男性64名 女性76名）

第2回： 24名（男性11名 女性13名）

③登録者数

第1回：140名 第2回：23名

3. 企画運営のポイント

第1回：群馬大学教育学部 岩瀧研究室と連携し、群馬大学生が赤城で自ら体験活動を行いながら、秋のアウトドアフェスタ（仮称）へ向けたスキルアップを図る。また、法人ボランティアに対する知識を深め、法人ボランティア登録をする。さらに、赤城の事業への興味を高める。

第2回：①国立青少年教育施設における法人ボランティアについて理解を深める講義

②実際に赤城で行われているドラム缶ピザなどの野外活動を体験することにより、自信を持ってボランティア活動に参加できるようにする。

③赤城で宿泊を行い、赤城の使い方を知ること、自信を持ってボランティア活動ができるようにする。

4. 日程

	午前	午後	夜
6月 2日 (土)	青少年施設の現状と理解 講師 国立赤城青少年交流の家 所長 松村 純子 救急救命法 講師 前橋市北消防署 白川分署職員	青少年教育 講師 国立赤城青少年交流の家 所長 松村 純子 ボランティア活動の意義 講師 国立赤城青少年交流の家 職員	ピアサポート・グループワーク 講師 群馬大学教育学部 准教授 岩瀧 大樹
6月 3日 (日)	青少年施設におけるボランティア活動 講師 国立赤城青少年交流の家 職員 野外炊事 舞ギリ、火打ち石による火起こし 空き缶ご飯、カレー作り	野外炊事 舞ギリ、火打ち石による火起こし 空き缶ご飯、カレー作り	

	午 前	午 後	夜
6月 16日 (土)	青少年教育 講師 国立赤城青少年交流の家 所長 松村 純子 青少年施設の現状と理解 講師 国立赤城青少年交流の家 所長 松村 純子	野外炊事 ドラム缶ピザ	ボランティア活動の意義 講師 国立赤城青少年交流の家 職員 先輩ボランティア
6月 17日 (日)	救急救命法 講師 前橋市北消防署 白川分署職員	青少年施設におけるボランティア活動 講師 国立赤城青少年交流の家 職員	

5. 主な活動内容



救急救命法



舞ギリによる火起こし



空き缶ご飯



青少年教育



ドラム缶ピザ



先輩ボランティアの活躍

6. 成果と課題

(1) 参加者アンケート結果

第1回 満足：81% やや満足：19% やや不満：0% 不満：0%
 第2回 満足：92% やや満足：8% やや不満：0% 不満：0%

(2) 参加者の声

- ・主体性、責任性、協調性、それぞれ学ぶことができ、異年齢交流を通してボランティアの意義について学べて良かったです。ボランティア活動に対する見方が少し変わり、前向きにこれから参加してみたいと思うことができたセミナーでした、ありがとうございました。
- ・とても楽しく、知らなかった人とも仲良くなるようなプログラムで、この事業に参加できて本当に良かったと思えました。

(3) 成果

参加者同士がお互いに関わり合いながら、ボランティア活動の意義について考え、ボランティアを行う上での基礎となる考え方やスキルを身につける機会を提供することができた。また、野外炊事は2回とも、参加者に対してやや負荷をかけるプログラムであったが、それ故に、心に残る体験となった。

(4) 課題

ボランティア養成セミナーの参加者を、次の事業の参加へと繋げていくために、つながりを作っていくことが課題である。

担当：企画指導専門職 田村 佳之